



キリスト教の GOOD FRIDAY とユダヤ教の PASSOVER の関係 牧師 立石尚志

● NY周辺の学校の春休みが毎年時期がずれるのは・・・

世界中でユダヤ人が最も多く住む町は、イスラエルのテルアビブで250万人です。しかし驚くなかれ、ニューヨークは堂々第二位、190万人のユダヤ人が住んでいます(因みに日本人は6万人)。このような事情もあり、公立、私立問わずNY周辺の学校ではユダヤ教の祭日がお休みになることが普通です。秋にヨムキプール(大贖罪の日)／ロシュ・ハシヤナー(新年)があり、春には過越祭(ペサハ)があります。過越祭は1週間以上続き、特に最初の二日間、ユダヤ人達は労働を謹みます。春はこれに加え、1)キリスト教のイースターの二日前のグッドフライデー(キリストが十字架に架かれた日)が休みになること、2)イースターが春分後の満月後に最も近い日曜であること、3)過越祭も太陰暦に基づくユダヤ歴で定められている、という理由でこれらの日程は年ごとに異なり、春休みもその結果動き回ることになるのです。ニューヨークは人種のるつぼと呼ばれ、他の民族が多くいる中で、ユダヤ人たちの影響力が実際どれくらい大きいか分かります。しかし、この過越祭とグッドフライデー、そもそもは同じ意味を持っていたことをご存知でしょうか。

● 「神の怒り」が「過ぎ越す」ので私たちは救われる

過越祭(けごしさい)はイスラエル民族*がエジプトでの奴隷生活から解放(紀元前15世紀半ばまたは13世紀半ば)を祝う祭りです。過越/Pasover(英)、Pesach(ハブ語)の名称は由来は、エジプトをいよいよ脱出する前夜、神が1)脱出の支度を急がせるためにパン種(イースト)を入れずにパンを焼かせ、2)小羊を一頭屠(ほ)り、その血を家の戸口の門柱と鴨居とに塗ることを命じたところから来ます。その夜、エジプトの全家と全家畜の初子を撃つために滅びの天使が遣わされたのですが、イスラエル人の家の血塗られた戸口を見るとそこでは既に犠牲が出た、ということで初子が殺すことなく過ぎ越していったのです。*イスラエル人は別名ヘブライ人、また後世、最も優勢となったユダ部族に因んでユダヤ人とも呼ばれる。

過ぎ越しの故事において、神の裁きがエジプト人たちに対して極めて過酷であったことを思うと身震いしますが、見逃してはならないのは、イスラエル人であっても、

本来神の前ではエジプト人同様、罪人であり、彼らが助かり、神の怒りが彼らを過ぎ越すためには、小羊の身代わりの血が必要であった、ということなのです。

一方、グッドフライデー(聖金曜日)とは、キリストが全人類の罪を背負い、身代わりとなって自ら十字架に掛かり、神の怒りをその身に負われた日、ということでキリスト者にとっては最も厳粛な日です。いわゆる「受難曲」はこの日に演奏するために作られたものです。キリストはユダヤ人であったことはご存知だと思いますが、この十字架と復活の出来事はまさに過越祭の時に起きた出来事だったのです。

キリストは十字架に掛かれる前夜、過越の食事を弟子たちとし、1)自らがパン種を入れない(罪がないことの象徴)パンであり、また、2)自らが過越の羊となって多くの人のために血を流さなければならないことを教え、十字架に掛かる理由を説明したのです。そして、誰でもあっても神の前に自らの罪を悔い改め、キリストの身代わりを感謝し、信じ、神に立ち返るなら、神の怒りを免れ、永遠の命を受けることができることを教えたのです。

キリストの十字架と復活こそ、「過越祭の成就」と信じたユダヤ人達が、最初のクリスチャンになったのです。そして彼らが「全世界に出て行って罪の赦しの福音を広めよ」というキリストの命令に従った結果、キリスト教は全世界に広がることになり、過越祭ではなくイースターが祝われるようになったのです。

一方、イエスをメシヤ(ギリシャ語でキリスト)として受け入れなかったユダヤ人たちは二千年間、過越祭を守り続けてきたわけですが、ユダヤ人たちが門柱と鴨居に血を実際には塗ったのは出エジプトの時だけで、羊を屠る習慣もローマ帝国によって紀元70年にエルサレムが陥落したことです。今では家族で過ぎ越しの食事をして、過ぎ越しの出来事を読みながら回想するという形がとられるようになっています。

(裏面に続く)

クリスチャン・ファミリーとされて K.H.さん

転入の証し 2012年1月22日 Kさんのご主人の洗礼の証しはグリニッチ便り157号にあります。

私はアイリッシュ系カトリックの家に生まれたアメリカ人です。母は教会に通っていましたが、父は私が生まれる前からアルコール中毒で、教会にも行っていませんでした。私が2歳のとき、母は公園で会ったよそのお母さんを通して、イエス様のことを深く知るようになったと聞いています。その後も母は私を連れてカトリック教会に通いましたが、私が7歳のときに、カトリックの教えに対する疑問が大きくなり、母と私はプロテスタントの教会に行くようになりました。

一方、父のアルコール中毒はどんどん悪くなりました。また、私が9歳のときによそに女の人を作り、父は家族を捨て、出て行きました。母は父と離婚

し、すぐ後に再婚しました。結婚相手は厳しいクリスチャンでした。どう厳しいかと言うと、例えば、これは私が16歳の時のことですが、聖書を最初から最後まで読まないと言えないと運転免許を取ることを許してくれませんでした。

さて、17歳で大学に入り、私は初めて親元を離れ、一人で生活しました。私は心の中ではイエス様を神様と信じていましたが、一人で生活していると、自分から教会に通うことはありませんでした。19歳の時に、私は交換留学して来ていた夫と、出会いました。彼はクリスチャンでなかったため、心の中で葛藤がありましたが、若かった私は疑問に目をつむり、21歳で結婚しました。

結婚した後、2年ほど神戸に住み、その後、ニューヨークに引っ越し、マンハッタンで就職しました。25歳の時、昼休みに通っていたジムで、同じ年頃の女性から、バイブル・スタディに誘われ、これをきっかけに、私たち夫婦は教会に通うようになりました。私はカトリック教会で幼児洗礼を受けていましたが、12歳の時にプロテスタントの教会でも洗礼を受けまし



た。しかし25歳で通うようになった教会は、子どもの時の洗礼は認めないという考えだったため、ここで私は3度目の洗礼を受けたのでした。

さて、こうして私は25歳でイエス様を再発見し、人生変更のチャンスを与えられました。しかし、夫がクリスチャンでないため、全てが思い通りにできるわけではありませんでした。その一つが、献金のことでした。人生で持っているものは全て神様から与えられたものです。だから聖書で神様が言われているように、収入の10%を神様

に返す献金をしたいと強く思っていました。それは大きなチャレンジですが、それができればどんな大きな祝福が与えられるのだろう！ そう考えていました。しかし、夫はそんな私の考えを理解してくれず、献金はいつも夫を説得してやっとわずかな金額ができただけでした。

でも今は夫がクリスチャンとなったおかげで、献金もちゃんとできるようになりました。こうして神様のことばに従えることは、とても恵まれたことだと感謝しています。特に、子どもたち

がまだ小さいうちにクリスチャン・ファミリーになれたことに感謝しています。子どもたちはすぐに大きくなって、離れていってしまいます。子どもたちをクリスチャン・ファミリーで育てられるのは、大変な恵みだと思います。

ありがとうございます。 ■



(裏面からの続き)

● 過ぎ越し、キリストの十字架と私たち

過越祭もキリストの受難も、両方、血が流されたという出来事であり、日本人からしてみると、聖書はなぜこんなにも血なまぐさいのだ、と言いたくなるかも知れません。そうは言っても、実際、私達の社会でもおびただしい数の動物の血が毎日人間に食されるためにどこかで流されていることを忘れてはいけませんし、重罪に対する報復のために血が流される、という面から考えるなら、江戸時代には敵討(かたきうち)も合法でしたし、今でも極刑として死刑が行われるわけで、血が流されるのと同様のことが行われるのです。もし自分の子供が、自己中心な人間によって殺されたなら、私たちはその人の「血」を要求するのが自然な感情だからなのです。

そこで、なぜ神が過越祭、そして十字架を備えられたのか、ということを理解するためには、私達は、殺人者の親の立場になって考えて見る必要があります。自分の子供が犯した罪に対して、被害者の遺族は当然の権利として報復を求めて来るでしょう。その結果、自分の子は極刑か、人生の大半を刑務所で過ごすことになるのです。当然の報いと言えは当然ですが、親がその子供を不憫に思い、何とか人生を立て直すチャンスを与えたいと願うなら、親自らが何らかの犠牲を払おうとするのではないのでしょうか。

神が全世界を作られ、そのオーナーであるがゆえに、

人間が犯すすべての罪...それが自分に対してであろうと他人に対してであろうと、あるいは神が造られた自然界に対する罪であっても...は、究極的には神に対する罪なのであり、その意味で、神こそ被害者なのです。神の前

に正しさを主張できる人間は世界中に一人としていませんし、神の正義は、私たちの罪ゆえに「怒り」として現われるのです。

しかし人類を自分の「子供たち」という立場で創造された神は、なんとかその子供たちを助けたいと同時に願われたのです。これが「神の愛」です。その解決策として、ご自分の独り子を人として地上に遣わし、身代わりとされた、というのが、過ぎ越しであり、十字架だったのです。御子なる神も、自ら進んで十字架を忍ばれたのです。ここに神の愛が示された、と聖書は説明しています。

● 神が求めておられる応答

神は、私たちに多くを求めていません。イスラエル人たちは救いを信じて出エジプトの夜、門柱と鴨居に血を塗ったことで救われました。同様に、イエス・キリストが私たちの罪のための身代わりとなって死んでくださったことを信じるなら、私たちの人生の門柱と鴨居にイエスの血が塗られたことになるのです。このイエスの血を通し、神の怒りが私たちをも過ぎ越ししていくのです。 ■

■ 2012年の集会・行事予定 ■

※ 下記以外にも週の中に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集会】

★ 日曜礼拝/10:00~11:30

メッセージは託児室でモニターを通して聞くことができます。

礼拝後 グループ会/12:15 まで

大人、子供それぞれのクラスに分かれます

★ 祈禱会/水曜日 10:00~12:00

【各種集会】

★ スタンフォード 聖書を読む会

隔週水曜 1:15pm

★ ハートフォード 聖書を読む会

隔週月曜午前

毎週木曜午前 場所はお問合せください

★ ハリソン 聖書を読む会

隔週火曜 10:00am 場所:ハリソン長老教会

★ マウントキスコ 聖書を読む会

毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅

★ ハリソン・メンズ・バイブル・フェローシップ

第1,2,3木曜日 8:30pm 場所:荒木宅

● 4/6 (木) 受難を覚える祈禱会

● 4/8 (日) 1:00~3:00pm ファミリーイースターセレブレーション

● 4/21~6/09(毎週土曜日) 10:00~12:00pm キリスト教教養講座

テーマ: アメリカはキリスト教国なのですか?、生活に役に立つ聖書の知恵、進化論を信じないアメリカ人...創造か進化か?、大統領選挙/政治と宗教とキリスト教等

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、 牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》 教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: jgclmi@verizon.net

